「子どもたちに思い出を」

夏休みを利用　南相馬の子どもを朱鞠内へ

「シュマリナイ湖ワールドセンター」と「たどしこぶしの会」

【幌加内、深川】「子どもたちに夏休みの思い出を」――。東日本大震災に伴う福島原発事故によって、さまざまな活動が制限されている南相馬市の子どもたちを幌加内町朱鞠内の夏キャンプに招待しようと有志が実行委を組織して計画を進めている。NPO「シュマリナイ湖ワールドセンター」（中野信之理事長）と「東日本大震災・原発事故避難者たどしこぶしの会」（殿平善彦さんら共同代表）で、子どもの夏休み期間を利用して、四回に分け計二百人（親含め）を招く予定だ。中野理事長は「南相馬の子ども、そして親御さんに伸び伸びと開放感を味わってもらいたい」と話している。

「福島キッズキャンプ@朱鞠内」（仮称）で、「南相馬の子どもたちを思いっきり外で遊ばせたい」――を趣旨にキャンプなどを企画するNPO「南相馬こどものつばさ」と連携した取り組み。

「シュマリナイ湖ワールドセンター」が宿泊代などを特安サービスで対応する予定で、NPO「南相馬こどものつばさ」を通して、参加者を募る。

幌加内町や北海道社会福祉協議会などが協賛する予定だ。

宿泊予定地の朱鞠内湖は、周囲四十キロ・冠水面積二千三百七十三㌶のダムで国内有数の広さを誇る。周囲には針葉樹や広葉樹の広大な原生林が広がり湖岸はリアス式に似た複雑な地形で大小十三の小島が浮かぶ独特な景観が自慢だ。

計画によると、宿泊施設はNPO「シュマリナイ湖ワールドセンター」が管理する「ふれあいの家　まどか」と近くにある「レークハウス」。周囲の豊かな自然と農業を肌で感じることのできる宿泊施設で、一九五七年（昭和三十二年）に建てられた旧朱鞠内小の校舎を改装したものだ。

期間は、子どもたちが夏休中の七月下旬～八月下旬の間。第一～四期に分け、各五十人（子ども三十人・保護者二十人を想定）・計二百人を受け入れ、それぞれ三泊四日～五泊六日ほど滞在させる予定だ。

現地の朱鞠内湖で、水上を安全に歩くことができる「ウオーター・ウオーク」をしたり、生息するエビやウカサギなどを観察するほか、原生林の自然を生かしたウオークラリーなどを計画している。

中野理事長は「自然と触れ合う体験メニューの中で、南相馬の子どもたちに自然の大切さを伝えたい」と話す。

また、日本一の生産量を誇る地元資源・ソバを生かして、「そば打ち体験」なども予定する。全麺協の最高段位であるそば打ち五段を持つ守田秀生町長が被災児童に直接教えることも検討中だ。

また、町立幌加内高校の生徒がそば打ちを教え、南相馬の子どもたちと触れ合う機会を創りたい構想もある。

「たどしこぶしの会」は、このうち第一期のグループをメンバー宅にホームステイしてもらう計画だ。

殿平代表は「子どもだけでなく、親である大人も多くの問題を抱えていると聞いている。大人も福島から一歩出て、朱鞠内の大自然の中で一服してほしい。移住・避難相談にも応じる」。

課題はフェリー代などの費用をどうひねり出すかだ。北海道が、こうした被災児童受け入れに絡む本年度補助予算額を前年度に比べ四分の一程度の二千万円に減らしたこともあり殿平代表は「厳しい状況。被災者関連の各支援団体に助成をお願いしたり、賛意のいただける個人・団体に寄付を募りたい」と話す。

「シュマリナイ湖ワールドセンター」と「たどしこぶしの会」は、今年一回限りではなく、毎夏続ける恒常的な取り組みとしたい意向を示す。

中野理事長は「安全に遊べて、参加者全員とスタッフが仲良くなって『朱鞠内に来て良かった』と感じてもらえれば」と話している。

北空知新聞
発行所
北空知新聞社
購読のお申込み・ご意見・ご要望は
〒074-0001
深川市1条11番16号
TEL（0164）23-5509
FAX（0164）23-5529
メールアドレス
kitasorachi@galaxy.ocn.ne.jp

医療法人アンリー・デュナン会
深川第一病院
病院長　林　憲雄
深川市あけぼの町一番一号　TEL㈹㉓3511
内科・消化器科・リハビリテーション科・眼科・歯科・歯科口腔外科・糖尿病専門外来

管内の天気予報

日付	19（土）	20（日）	21（月）	22（火）
天気				
最高	17℃	23℃	22℃	24℃
最低	4℃	8℃	10℃	10℃
降水確率	30%	10%	30%	20%